



駒本の力

駒本小学校(家)
教育活動紹介便り
校長 田中 克昌
NO. 11
平成27年10月16日

人を育てることの難しさ2

やって見せて、言って聞かせて、

やらせて見て、ほめてやらねば、人は動かず。

山本五十六

前号の続きです。前回は、「やって見せて(模範)」「言って聞かせて(説明)」について解説しました。今回は「やらせて見て(行為)」「ほめる(賞賛)」「人は動かず」を説明します。今号は「人を育てることの難しさ」特集となりました。

3. 「やらせて見て」(行為)

やって見せて、言って聞かせたら、「やらせてみる」ということになります。ただし、ここで大切なことを見守るということであり、支援であり、寄り添うということでもあります。さらに、すぐには手を出さないということです。失敗しそうだ、説明と違う方法をしそうだと思うと、私たちはついつい口と手を出してしまいます。これは明らかに過保護、過干渉となってしまう、受動的で指示待ちの子どもにしてしまいます。親や教員は、ついつい手出し口出しをしたくなります。そこは、ぐっとこらえて、子どもたちが「?」と思うのを待ちましょう。すぐに答えややり方を教えるのではなく、ちょっとしたヒントだけをそばでつぶやけばいいのです。

4. 「ほめる」(賞賛)

【ほめて育てる】

「やって見せて、言って聞かせて、やらせて見て」、次が「ほめる」です。保護者のみなさんは日常的に子どもたちを意識的に「ほめて」いますか?この「ほめる」ということは、意外と難しいものです。子どもをほめると、子どもがいい気になるとか、あんな程度ではほめられないとか、なにか、ほめると自分が損をするように思っている人もいます。また、ほめた後に注文をつける人もいます。「今日はよくできたね。いつもそうだといいんだけど。」これでは子どもたちはうれしくありません。

日本では、これまでほめるというよりは、叱咤激励するということの方が主流であった時が長いように思います。ほめて育てると言うことが子育てや教育の常識となったのは、随分と最近のことのように思います。

【ほめて喜んでもらえる人になろう】

時には、厳しく指導することは大切であると思いますが、そこには親や指導者からの賞賛や激励や労いが支えになっていないと、活動の意欲にはつながりません。私が教務主任をしていた学校の校長先生は、めったにほめることをしない校長先生でした。その方がある日、私が行った職務内容について「田中さん、さすがだね」とほめてくださったことがあります。尊敬していた校長先生でしたし、めったにほめることがない先生で

したから、「さすがだね」の5文字はとてもうれしかったことを覚えています。行ったことを認めてくれ、努力を評価してくれ、その成果をほめてくれたのが、とてもうれしく、思わず「やったね」と思ったものです。たった5文字の「さすがだね」で人を動かすことができる、その校長先生は本当にすばらしいと、思います。なぜ、たった5文字がうれしいのか、そこには指導者との信頼関係や尊敬の念があるからです。教師として管理職として尊敬する人に、認めてもらえたからこそ、たった5文字が心にずしんと響いたのです。保護者として指導者として子どもたちに背中を見せられる人になりたいと思います。尊敬という人間関係が構築されている人からの賞賛は本当にうれしいものです。

【ほめることは、難しい？】

さて、「ほめる」ということは簡単ですか？それとも難しいですか？、私はとても難しいと思っています。まず自分が相手に対して「ほめる」ことができ、ほめて喜んでもらえる者となっているかどうか疑問だからです。さらに、相手の行為について何をほめれば、相手の心に届くのかを見極めることが難しいのです。

【成果をほめる？過程をほめる？】

「ほめる」ということは、「成果」をほめるのか、「過程」をほめるのか、大きく分けて二つに分けることができます。漢字テストで百点を取った時に、「百点、立派でした」とほめれば、成果に対してです。惜しくも90点だとしても、よく練習していた子なら、「何度も苦勞して練習していたね、努力していたこと立派でした」とほめれば、過程に対してですね。さらに、「何度も苦勞して練習した成果が確実に現れてきたね」とほめれば、成果と過程の両方をほめたこととなります。山本五十六氏の言葉から考えると、試行錯誤でやらせて見て、苦勞して努力して何かしの成果を得た時に、「ほめる」ことが大切であるのですから、過程と成果をほめることでしょう。 【直接的にほめる？間接的にほめる？】

【直接的にほめる？間接的にほめる？】

直接的にほめられる以上に間接的にほめられるととてもうれしいものです。例えば、運動会の応援団長がよくがんばっていることを、指導している教員が直接ほめることも大切ですが、担任に「〇〇さんのおかげで応援団がとても盛り上がっています」と伝え、担任から、その子に、「指導している〇〇先生が、君のおかげで、応援団の子たちがとてもがんばっているよ、とほめていたよ、先生もとてもうれしかったよ」と子どもに伝えます。どうでしょうか、指導者の先生から間接的にほめられ。担任から直接的にほめられるのですから、威力百倍ですよ。間接的にほめること、いろいろな場で応用できます。これを私は「三角ほめ」と言っています。

5. 「人は動かす」

「やって見せ、言って聞かせて、やらせて見て、ほめてやらねば、人は動かす」です。それでも「動かす」です。育てるにはまだまだステップあるようです。全校遠足に向けての集会では、6年生の班長の子どもたちがとても意欲的にそして優しく下学年の子どもたちをリードしていました。班長さんたちがここまでになるには、きっと各班の担当の教員や担任が、「やって見せ、言って聞かせて、やらせて見て、ほめてやらねば、人は動かす」を実践してくれた成果であると思います。

